

## 【空き家の利活用に関する取組みについて】

中四国地方で空き家の利活用を促す施策が打ち出されています。香川県坂出市は2024年度から転入者向けの修繕費の補助事業を拡充します。放置すると景観を損なう恐れのある空き家対策は、人口減に悩む都市ほど重要で、自治体が民間事業者と連携する事例も目立っています。

香川県坂出市は移住者獲得と空き家の利活用の一石二鳥を狙っています。最大100万円の改修費を補助する既存事業を、24年度から最大200万円に引き上げ、市外からの移住者には追加で50万円、中心部に位置する物件であればさらに50万円を助成します。

坂出市の空き家バンクに登録された約30の物件が対象となります。24年度一般会計の予算案に2,100万円を盛り込み、23年度当初予算比で2倍以上の水準とします。この事業は20～22年度に各年度4～8件、23年度は2月末までに12件の利用実績があります。坂出市の政策課の担当者は「人口減の流れが続く中、既存制度を拡充させることで市中心部への移住者獲得に繋がりたい」と話しています。

その他エリアでの取組みとして、下関市では空き家や空き店舗の利活用を地域課題の解決につなげる「リノベーションまちづくり」が官民連携で進んでいます。松山市は古い空き家をレトロなまちづくりに生かしています。市中心部から車で15分程の港町、三津浜地区では「町家バンク」を設立し、地域での出店・移住希望者と古民家を繋いでいます。登録物件数は198件(1月31日時点)で、マッチングによる新規出店はこれまでで80件のほります。数年限定で古民家をテナントとして格安で貸出す制度も設け、出店ハードルを下げ新規出店も促しています。1店舗に複数のテナントが入居する形態だが、現在ではほぼ満室状態が続いています。貸出期間を終えた後に近隣で再出店する事業者も出ており、空き家が目立っていた地域の活性化に繋がっています。

中四国の空き家の概況		
県	空き家数	撤去・修繕率
鳥取	7200	15.4%
島根	9400	9.0
岡山	2万4000	7.8
広島	3万300	8.2
山口	2万3200	12.8
徳島	1万6300	9.0
香川	1万2200	19.4
愛媛	2万3400	19.2
高知	1万4200	18.5

(注) 空き家は破損などありの18年時点、比率は国交省資料などから独自に推計

※日本経済新聞「空き家活用、山口下関はまち再生 香川坂出は移住者獲得」より一部抜粋